

文部科学大臣賞

『僕だけの給食記念日』

栃木県小山市立大谷北小学校 四年三組 男子 廣原 裕心

平成二十八年三月一日火曜日。

僕は、この日のことを、一生わすれることはありません。なぜなら、この日は僕にとって、一番心にのこる、特別な学校給食を食べた、最初の日だからです。

みんなにとって、給食の時間は、とても楽しくて、おいしくて、ワクワクするひと時だと思います。でも、僕にとっての給食の時間は、たまにおいしいけれど、少し怖くて、きんちょうしてしまふひと時でした。なぜなら、僕には食物アレルギーがあり、たまごとにゆうせい品が食べられなかったからです。給食では、たまごとにゆうせい品をぬいた、食物アレルギー対応食を毎日作ってくれました。でも、本当はみんなと同じ給食を食べたくてたまりませんでした。

一さいの時、僕は、牛にゆうをふくんだデザートを少し食べてしまい、アナフィラキシーしようにしようを起こし、救急車で病院に運ばれました。その時に、僕はとても命があぶないじようにたいだったと、家族から聞きました。その時から、僕の食物アレルギーとの、長くて苦しい戦いの日々が始まりました。お医者さんからは最初、三さいになるまでには少し良くなると言われました。しかし、言葉どおりにはうまく行かず、病院のふかしけんでは、食べるとしように出してしまうので、ちりようがうまく行きませんでした。そんなある日、お母さんから、このまま食べられずに育っていくのか、それとも苦しいけれど、ほんのわずかな量のアレルギーをせっ取し、少しでも食べるようになりたいかと聞かれました。僕はがんばってせっ取る道を選たくしました。それから、僕は毎日、決まった量のアレルギーをせっ取るちりようをしました。ときどき、重いしようにじようが出たりしたので何度もくじけそうになりました。けれど、いつか絶対に食べられる日が来ると信じていました。

ちりようを始めてから二年間がたち、僕は七さいになりました。そして、たまごとにゆうせい品を、ようやく食べられるようになりました。

平成二十八年三月一日火曜日。

この日、僕は初めて、みんなと同じこん立ての学校給食を食べることができました。苦しくて長いちりようをがんばったかいがあったと思つたし、給食の味は二度と味わうことのできないほど、最高においしかったです。

いつも支えてくれる家族や先生、クラスみんな、そしておいしい給食を作ってくれた調理員さん、本当にありがとうございます。僕は今でも、時々あの日のことを思い出しながら、とても楽しく、おいしく給食を食べています。これからもおいしい給食を作ってください。どうぞよろしく願います。